

医療と介護の「絆」

なぜ医療と介護の絆が問われているのか
どうすれば医療と介護の絆が強まるのか

一般社団法人日本介護支援専門員協会居宅介護支援部会部会長
居宅介護支援事業者愛の園 管理者 崎山賢士

そもそも医療と介護の視点の違いは？

人をどう見るか

細胞が集まり、それらが一定範囲で調整しながら存在する人

社会環境との関わりの中で折り合いをつけながら存在する人

この双方から見なければ、その人らしい生活
が何かははっきりと理解できない。だから
こそ、医療と介護の絆を深める必要がある

当然医療の情報は介護で活かすべきだが、
介護の情報も医療に活かすべき

居宅介護支援における医療連携加算の 意味はそれを意識させるためのもの

医療連携加算

病院等と利用者に関する情報共有等を行うことに着目した評価

医療と介護の連携の強化・推進を図る観点から、入院時や退院・退所時に、病院等と利用者に関する情報共有等を行う際の評価を導入する。

医療連携加算 → 医療連携加算 150単位 / 月 (利用者1人につき1回を限度)

算定要件：病院又は診療所に入院する利用者につき、当該病院又は診療所の職員に対して、利用者に関する必要な情報を提供した場合

退院・退所加算 → 退院・退所加算(Ⅰ) 400単位 / 月 退院・退所加算(Ⅱ) 600単位 / 月

算定要件

【退院・退所加算(Ⅰ)】

入院期間又は入所期間が30日以下の場合であって、退院又は退所に当たって、病院等の職員と面談を行い、利用者に関する必要な情報の提供を求めることその他の連携を行った場合

【退院・退所加算(Ⅱ)】

入院期間又は入所期間が30日を超える場合であって、退院又は退所に当たって、病院等の職員と面談を行い、利用者に関する必要な情報の提供を求めることその他の連携を行った場合

医療と介護の間での良質な情報共有

過不足ない情報

正確な情報

タイムリーな情報

医療と介護の双方とも一体どのような情報が
必要なのかを互いに知り合うことが先決

具体的な方法論としての連携シート

マニュアルとシステムは欠かせない・・・ しかし

有効な連携 情報共有する際に必要な事項

共通の概念

共通の言語

双方向のコミュニケーション

どれか一つでも欠けていると有効な情報共有はできない。何がどう足りないのだろうか？

それぞれの倫理綱領を理解する

医の倫理綱領より

医学および医療は、病める人の治療はもとより、人びとの健康の維持もしくは増進を図るもので、医師は責任の重大性を認識し、人類愛を基にすべての人に奉仕するものである。

看護者の倫理綱領 前文より

人々は、人間としての尊厳を維持し、健康で幸福であることを願っている。看護は、このような人間の普遍的なニーズに応え、人々の健康な生活の実現に貢献することを使命としている。

介護支援専門員倫理綱領 条文より

(自立支援) 1. 私たち介護支援専門員は、個人の尊厳の保持を旨とし、利用者の基本的人権を擁護し、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、利用者本位の立場から支援していきます。

(利用者の権利擁護) 2. 私たち介護支援専門員は、常に最善の方法を用いて、利用者の利益と権利を擁護していきます。

医療現場の言語と介護現場の言語

言語というのはおかれた環境によってさまざまな変化を遂げる。医療現場は、命を扱う、ある意味非常に切羽詰まった環境に常に置かれているわけで、その現場で、的確にスピーディに情報を伝達していくためには、独特の略語や言い回しが必要不可欠であるといえる。介護現場は比較的時間の余裕があることもあり、最近カタカナが多くなってきたというものの、医療現場ほど言語が特殊化していないと思われる。つまり、おかれた環境が違えば、同じ日本語でも全く伝わらないほどの状態になるわけである。

それぞれの言語をどこに合わせるか。基本は利用者やその家族にも分かるレベルに合わせるべき。そうすれば、共通言語の問題はほとんどなくなるはず。

双方向のコミュニケーションについて

双方向のコミュニケーションで「情」のある良質
は連携が図れるよう互いに努力する必要性

(例)

要介護認定審査にかかる主治医意見書について

医療側に介護の情報が伝わっていなければ当然主治医意見書の精度が低下する

主治医意見書の内容が良いか悪いかが医療連携のひとつのバロメーター

情報共有の意味について

情報共有は単なるデータのやり取りではない

「情報」というのは詳しく字を見ると、「情」つまり「感情、
こころ」を、「報」つまり「知らせる」ことの意味

マニュアルとシステムだけに頼っていると「絆」は深まらない

ケアマネジャーはケアマネジメントプロセスの中でケアチーム間で事実を共有していく事だけでなく、その際に感じた感情にも注意を払うべき。同時に医療側もその事に深い感受性をめぐらしてコミュニケーションをはかってほしい

最後に

「情」と「絆」を使った慣用句

「情に絆される」

情に引きつけられて、心や行動の自由が縛られる(大辞林)

情によって絆は強く結ばれるのだと思うが、それが強まれば強まるほど、何らかの問題に遭遇した時、その絆を維持しようとする意思が強く表れ、問題解決の優先順位を下げってしまう危険性がある。医療も介護も対象者やその家族を支える専門職である以上、何が最も優先されるのかを常に意識する必要があります。